茨城県の中世城館

－茨城県中世城館跡総合調査報告書－

２０２３

茨城県教育委員会

茨城県の中世城館

－茨城県中世城館跡総合調査報告書－

２０２３

茨城県教育委員会

序

茨城県教育委員会では、県内の中世城館の保護・保存と活用についての基礎的資料を得ることを目的として、平成30年度より5か年にわたり、茨城県中世城館跡総合調査を実施してまいりました。本書は、その成果をまとめた報告書です。

調査の結果、1000か所以上に及ぶ城館跡等の所在を確認しました。従来より知られていた、県内各地域の文献や伝承に残る城館跡や、調査で新たに発見した城館跡など、数多くの城館跡を特定しその現状を把握できたことは、本調査の大きな成果といえます。

本県は、中世以来、佐竹氏や小田氏、真壁氏などの群雄が割拠し、目まぐるしくその勢力図が塗り替えられた場所であります。そのような時代の中で、城館は戦術的・戦略的な拠点となったばかりでなく、統治の中心や武士の生活の場として機能し、その形態には山城や平城など様々なものがあります。本書では、可能な限り説明文と縄張図を掲載し、城館跡の往時の姿をイメージできるものとしました。

調査の実施にあたり、専門委員の先生方からは常に的確な指導・助言を賜りました。調査員の皆様には、公私共々お忙しい中にもかかわらず、現地踏査や測量、文献調査など、地道な調査を進めていただきました。本書は、調査に携わった全ての皆様の中世城館への熱意が込められたもので、唯一無二の存在であります。本書が、茨城県における中世城館跡の基礎資料となるばかりでなく、本県の中世史研究の深化に寄与できるものと確信しております。

最後になりましたが、本調査にご参加いただいた専門委員、調査員の皆様、多大なご協力をいただいた市町村教育委員会をはじめとする関係諸機関、そして調査にご協力いただいた地元の方々に対し、心より感謝を申し上げます。

令和5年3月

茨城県教育委員会

教育長　森作　宜民

例　　言

1　本書は、茨城県教育委員会が平成30年度から令和4年度にわたり、国庫補助を受けて実施した、茨城県中世城館跡総合調査の調査報告書である。

2　本書には、茨城県内に所在する中世城館跡の調査成果を掲載した。

3　調査は、茨城大学人文学部高橋修教授を委員長とする、茨城県中世城館跡総合調査委員会を組織し、各専門委員および調査員が分担して行った。

　報告書作成は、各専門委員、調査員および事務局が分担して行った。なお、報告書の編集は事務局が行った。

　委員会の構成員や調査協力者等については、調査の概要を参照されたい。

4　今後、本書に掲載している縄張図を転載する場合には、本報告書名に加えて作図者名を明記することを条件とする。

凡　　例

掲載順

城館跡等の掲載順については、分布図の掲載順を考慮し、「県北地区」、「県央地区」、「県西地区」、「県南地区」、「鹿行地区」の順とした。

城館跡等の一覧表

1　作成にあたっては、調査によって確認された情報と各市町村教育委員会等から提出された調査カードの情報に依拠する。

2　一覧表の区分について

(1)　「城館跡」は、堀や土塁等によって区画された一つ以上の曲輪を有するものとし、「0001」から4桁の通し番号を付した。

(2)　「城館関連遺跡」は、明確な曲輪を有しないが、城館に関連するとみられる遺構を意味し、「K001」のように通し番号を付した。

(3)　「城館等伝承地」は、遺構は確認できないが、城館に関する伝承が残る土地を意味し、「D01」のように通し番号を付した。

(4)　「所在不明城館」は、史料や伝承により、城館が存在したことは知られるが、その所在地が不明なものであり、「F001」のように通し番号を付した。

3　一覧表の各項目について

(1)　「名称」は、原則として、城館名が埋蔵文化財包蔵地名として周知されている場合には、その名称を使用した。包蔵地名が「○○遺跡」のように城館名でないものについては、城館名がある場合にはその名称を使用した。ただし、城館名がない場合や、城館名はあるが「○○遺跡」のような包蔵地名が一般的に使用されている場合は、包蔵地名のままとした。

(2)　「ふりがな」は、原則として埋蔵文化財包蔵地として周知されたものを振った。よって、「館」には「やかた」、「たて」が混在する。

(3)　「別称」は、「名称」とは別に使われている呼称のことであるが、「名称」として取り上げた呼称に対して従属的な呼称を意味するわけではない。

(4)　「所在地」、「伝承地」、「推定地・候補地」は、市町村名、大字名を原則とし、小字が判明したもの、特に城館に関連するとみられるものは小字名も記した。

(5)　「座標」は、主郭、あるいは、城域の中心付近地点の緯度、経度を10進法で示した。

(6)　「地図番号」は、該当する図幅の索引番号で、各図の右肩に記載された番号を示す。

(7)　「立地」、「現況」、「残存遺構」は、該当項目欄に「○」で示し、「その他」は必要に応じて記載した。

(8)　「立地」は、城館の立地する地形を次のような視点で区分し、該当する欄に○で示した。

ア「平地」は、低地、あるいは、台地上の平坦な土地に立地するもの。

イ「丘陵・台地」は、丘陵や台地縁辺部に立地するもの。

ウ「山地」は、山の頂部や尾根上に立地するもの。

(9)　「残存遺構」は、調査で確認されたものや、各市町村教育委員会等により確認され調査カードに記載されたものを該当欄に「○」で示した。なお、「曲輪」、「堀」は、それぞれ、「帯

曲輪」や「腰曲輪」、「竪堀」や「堀切」等を含む広義の意である。

(10)「県包蔵地番号」は、埋蔵文化財包蔵地として周知され、県に登録された番号である。

(11)「指定」は、指定史跡である。国指定史跡は「国」、県指定史跡は「県」、市町村指定史跡は、「市」・「町」・「村」と表示した。

(12)「概要」では、「主要な城館跡及び城館関連遺跡」に記載したものは、「本文掲載」と表示し、それ以外のものについて、調査カードに記された情報や調査で得られた情報をまとめたものである。築城者や築城年代などが不明のものは、「来歴不明」とした。

(13)「発掘調査報告書番号」は、付属 DVD に収録された「茨城県内発掘調査例総括表」の通し番号を記した。

主な城館跡と城館関連遺跡

1　一覧表に掲載された城館跡及び城館関連遺跡のうち、主なものを、政治的重要性、城館の規模と構造、遺構の残存状況等を基準に抽出し、調査員が分担して執筆した。

2　タイトル行には、左から一覧表の城館番号、名称、所在地の大字までの住所、現況、別称（ある場合)、地図番号の順に掲載した。

3　執筆内容は、立地、城館の構造、残存遺構、築城者、築城年代、来歴、伝承等を中心に記述した。文中の城館名には（　）で城館番号を示した。

4　各執筆者を文末に（姓のみ）で示した。(氏名は、「Ⅱ　調査の概要」参照。)

5　参考文献、出典等は、「Ⅲ　4　参考文献」に一括して掲載し、文中では（著者名　西暦）あるいは、(『書名等』）で示した。なお、頻出するものは次のように略称で示した。

『図茨』：茨城県城郭研究会編 2006『図説　茨城の城郭』図書刊行会

『茨改』：茨城県城郭研究会編 2017『改訂版　図説　茨城の城郭』図書刊行会

『続茨』：茨城城郭研究会編 2017『続　図説　茨城の城郭』図書刊行会

『茨３』：茨城城郭研究会編 2022『図説　茨城の城郭　3　県北編』青木義一

『常中』〇：茨城大学中世史研究会『常総中世史研究』第〇号

6　各城館の解説には、必ず縄張図、測量図、その他の図（実測図、概念図、復元図、古絵図など）を付した。

7　過去の調査で既に公表されている縄張図等を使用する場合は、著作権者の許可を得て出典を示し転載した。その際、著作権者の許可を得て図中の内容・記号等を加筆・修正した。

8　縄張り調査に際しては、調査方法を統一せず、各調査員がそれぞれ独自に、歩測あるいは測量機具を用いて実施した。

9　図のキャプションは、枠外下部に、城館名・作成者名・調査日・出典（転載の場合）の順に示した。　例）水戸城跡縄張図 茨城太郎 2023.10.10（『茨城 2001』より転載）

10　図の縮尺は、ページレイアウトの都合上統一せず、図中に長さの基準を表示した。

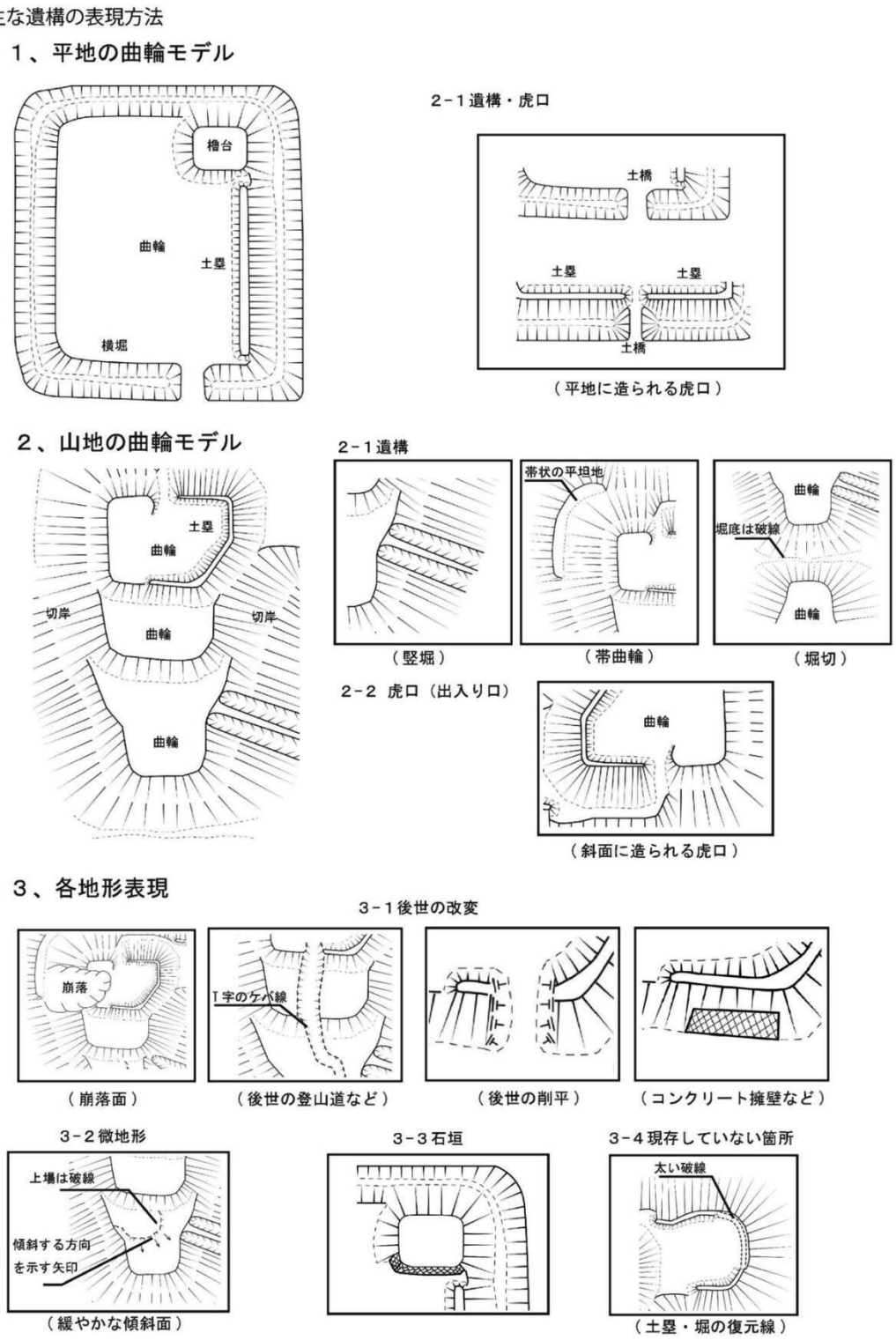
11　古絵図以外の図には方位を示した。なお、図中の方位北は真北を示す。

12　図中の高度値は標高を示す。

13　図中の地名は小字を示し、カタカナ書きの地名は俗称地名を示す。

14　図中の曲輪（及び曲輪群）には、便宜上、解説のための番号をローマ数字で「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…」のように振った。また同様に、各遺構には、アルファベットで「A・B・C…」「a・b・c…」のように振った。

図中の各遺構は、原則として下図のように表現した。ただし、作成者により表現が異なる場合もある。



目　　次

序　文
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ　序　論　・・・

山館跡/小山館跡(199)　才丸城跡/車伊豆堂城跡(200)　関本中粟野城跡(201)　**高萩市**：西館屋敷跡(201)　龍子山城跡と周辺城館(202)　中の館跡と周辺城館(203)　安良川城跡/島名城跡(204)　リウガイ古屋鋪跡(205)　**日立市：**新城館跡(205)　大窪城跡と周辺城館(206)　要害城跡/久慈城跡(207)　櫛形城跡/山尾城跡(208)　友部城跡/城の内台城跡(209)入四間館跡/要害山城跡(210)　高原妙見館跡/水瀬愛宕館跡(211)　**東海村：**石神城跡(212)　真崎城跡/白方城跡(213)**ひたちなか市：**奥山館跡/多良崎城跡(214)　清水館跡/勝倉城跡(215)　小山城跡/中根城跡(216)　篠根沢館跡/雄害城跡(217)　金上城跡/枝川城跡(218)　深茂内館跡/尼ヶ祢館跡(219)　館山城跡(220)　**城里町：**石塚城跡(220)　那珂西城跡/八幡館跡(221)　勝見沢館跡/越後館跡(222)　龍崖城跡/大山城跡(223)　高久館跡/下圷館跡(224)　孫根城跡(225)　御前山城跡/二反田城跡(226)　荻原屋敷遺跡/戸倉館跡(227)　古内城跡(228)　**笠間市：**麓城跡(228)　飯田城跡(229)　笠間城跡(230)　本戸城跡/上加賀田城跡(232)　金井前東館跡/金井前西館跡(233)　市原城跡/小原城跡(234)　宍戸城跡/古館(235)　佐藤氏館跡/住吉城跡(236)　湯崎城跡/長兎路城跡(237)　下安居堀之内館跡/泉古市館跡(238)　泉城跡/難台山城跡(239)　館岸城跡/山尾館跡(240)　住吉堀ノ内(241)　**水戸市：**吉田城跡(241)　長者山城跡(242)　河和田城跡(243)　武熊城跡/加倉井館跡(244)　神生館跡/見川城跡(245)　水戸城跡(246)　加倉井忠光館跡/大部平太郎屋敷跡(248)　白石遺跡(249)　中河内館跡/伊豆屋敷跡(250)　大串原館跡/久保山館跡(251)　鯉淵城跡/大足城跡(252)　江川館跡/赤尾関館跡(253)　三湯館跡/小林館跡(254)　大鋸町遺跡/遠台遺跡(255)　全隈城跡/有賀北館跡(256)　御局屋敷跡/田谷城跡(257)　安川城跡/平戸館跡(258)　森戸館跡/藤井城跡(259)　成沢要害跡(260)　**茨城町：**飯沼城跡(260)石崎城跡/宮ケ崎城跡(261)　小幡城跡(262)　海老沢館跡・内手館跡/鳥羽田城跡(264)　網掛館跡/天古崎城跡(265)　宮ケ崎館跡/谷田部城跡(266)　奥谷城跡/神宿城跡(267)　小堤城跡/大戸城跡(268)　上石崎登城跡/福蔵城跡(269)　野曽城跡/宮ケ崎祐善城跡(270)　雨ヶ谷城跡/中石崎三条館跡(271)　小鶴館跡/前田城跡(272)　**大洗町：**登城館跡/龍貝館跡(273)　小館館跡/大館館跡(274)　館山館跡/後新古屋館跡(275)　**古河市：**古河公方足利成氏館跡/小堤城跡(276)　古河城跡(278)　**結城市：**結城城跡(277)　山川館跡(279)　山川綾戸城跡(280)　城の内館跡/結城長塁(281)　**八千代町：**太田城跡(282)　和歌城跡/尾崎城跡(283)　**下妻市：**下妻城跡(284)　大宝城跡/駒城跡(285)　**筑西市：**久下田城跡(286)　下館城跡/伊佐城跡(287)　関城跡/東睿山承和寺跡(288)　海老ヶ島城跡/四保城跡(289)　小栗城跡(290)　**桜川市：**真壁城跡(291)　平良兼館跡/椎尾城跡(292)　亀熊城跡/谷貝城跡(293)　谷貝峯城跡/羽黒山城跡(294)　富谷城跡/橋本城跡(295)　坂戸城跡/棟峰城跡(296)　門毛城跡/池亀城跡(297)　谷中城跡/磯部城跡(298)　富岡城跡/雨引山城跡(299)　**五霞町：**城山城跡/山王山城跡(300)　**境町：**　長井戸城跡/田向城跡(301)　**坂東市：**弓田城跡/大鳥館跡(302)　逆井城跡(303)　駒寄城跡(304)　**常総市：**大生郷城跡(304)　弘経寺城跡/大塚戸城跡(305)　菅生城跡(306)　石毛城跡/向石毛城跡(307)　古間木城跡/豊田城跡(308)　蔵持城跡/内守谷城跡(309)　実城跡/羽生城跡(310)　館城跡/報恩寺城跡(311)**石岡市：**根当要害跡/外城跡(312)　府中城跡(313)　小井戸要害跡/高野浜城跡(314)　三村城跡(315)　高友古塁跡/猿壁城跡(316)　柿岡城跡(317)　片野城跡(318)　諏訪山砦跡/小幡堀ノ内館跡(319)　吉生砦跡/二条山館跡(320)　長峰砦跡/青柳要害跡(321)　根古屋館跡/大増城跡(322)　野田館跡/片岡館跡(323)　山崎古館跡/成井館跡(324)　厚茂城跡(325)**小美玉市：**立開城跡(325)　小河城跡(326)　中根山館跡/下田館跡(327)　竹原城跡(328)　宮田館跡/鶴田城跡(329)　富士館跡/片倉砦跡(330)　羽鳥館跡/高崎城跡(331)　取手山館跡(332)　飯塚館跡/要害館跡(333)　城之内館跡/原山館跡(334)　笠松館跡/一杯館跡(335)　**かすみがうら市：**宍倉城跡(336)　上軽部館跡/大和田城跡(337)　田伏城跡/坂寄居山館跡(338)平後館跡/笠松城跡(339)　八田館跡/戸崎城跡(340)　志筑城跡(342)　中根長者屋敷跡/権現山城跡(343)　西坪遺跡/古館遺跡(344)　願成寺跡/後庵城跡(345)　**土浦市：**岩田館跡/南古屋敷館跡(346)　今泉城跡/手野城跡(347)　土浦城跡(348)　木田余城跡/沖宿堀の内館跡(349)　神明・山川館跡/峯台城跡(350)　藤沢城跡(351)　法雲寺跡/永井城跡(352)　甲山城跡/田土部城跡(353)　下坂田屋敷内城跡/高岡丸ノ内館跡（354）　**つくば市：**若森城跡/長峰城跡(355)　手子生城跡/谷田部城跡(356)　小野崎館跡(357)　金田城跡(358)　上ノ室城跡/古来館跡(359)　花室城跡(360)　多気城跡(361)　小田城跡(362)　前山城跡(363)　水守城跡/佐城跡(364)　小泉館跡(365)　栗崎城跡と周辺城館群(366)　前

木館跡/柴崎片岡上館跡(367)　島名前野東遺跡(368)　寺具城跡/宝篋山城跡(369)　若栗御城跡/泊崎城跡(370)　下岩崎古館城跡/日輪寺城跡(371)　谷田部大堀遺跡(372)　**つくばみらい市**：三條院城跡(372)　足高城跡(373)　板橋城跡/小張城跡(374)　筒戸城跡(375)　**守谷市**：守谷城跡/高野館跡(376)　**取手市**：大鹿城跡(376)　下高井城跡(377)　**利根町**：布川城跡(378)　岩井城跡(379)　**龍ケ崎市**：若柴城跡(379)　龍ケ崎城跡(380)　馴馬城跡/貝原塚城跡(381)　屋代城跡(382)　泉城跡/長峰城跡(383)　登城山館跡/大日山館跡(384)　外八代城跡/屏風ヶ崎城跡(385)　**牛久市**：牛久城跡 (386)　東林寺城跡（387）　岡見城跡（388）　小坂城跡(389)　久野城跡/桂城跡(390)　遠山城跡/観音寺遺構(391)　**阿見町**：立の越館跡/大室城跡(392)　島津城跡/上条城跡(393)　塙城跡(394)　上長館跡/下小池城跡(395)　福田城跡/篠崎館跡(396)　皿数館跡（397）　**美浦村**：御茶園館跡(397)　廣徳寺城跡/木原館跡(398)　木原城跡(399)　舟子城跡/大谷根古屋城跡(400)　馬掛不動砦跡(401)　**稲敷市**：御城跡(401)　江戸崎城跡(402)　羽賀城跡(403)　森戸城跡/東条高田城跡(404)　椎塚城跡/神向寺城跡(405)　二条城跡/東条城跡(406)　神宮寺城跡/浮島城跡(407)　古渡城跡/古渡東城跡(408)　阿波崎城跡と周辺城館群(409)　街道閉塞堀切･土塁群(410)　**鉾田市**:下太田館跡/天神山館跡(411)　烟田城跡(412)　富士山館跡/馬場館跡(413)　三階城跡(414)　徳宿城跡(415)　野友城跡/高野城跡(416)　要害城跡/堀ノ内砦跡(417)　蕨砦跡/金色館跡(418)　雑賀殿館跡/冨田城跡(419)　武田城跡/阿玉城跡(420)　札城跡/西山館跡(421)　中居城跡(422)　阿玉館跡/金弓館跡(423)　**行方市**：相賀城跡 /古屋城跡(424)　麻生城跡(425)　島並城跡/中城跡(426)　小高城跡(427)　船子城跡/小屋下城跡(428)　代田館跡/山田城跡(429)　前館跡/神明城跡(430)　木崎城跡(431)　小幡城跡/内宿館跡(432)　小貫城跡/手賀城跡(433)　玉造城跡(434)　芹沢城跡/沖洲館跡(435)　羽生館跡/山中館跡(436)　鳥名木館跡/小貫館跡(437)　人見館跡/右近館跡(438)　若常館跡/諏訪館跡(439)　岡部館跡/中坪城跡(440)　高岡城跡(441)　**鹿嶋市**：粟生城跡(441)　鹿島城跡(442)　竜会城跡/塚原館跡(443)　明地野館跡/赤山館跡(444)　林城跡(445)　林中城跡(446)　楯の宮館跡/津賀城跡(447)　津賀館跡/武井城跡(448)　甲頭城跡/志崎城跡(449)　小田辺城跡/中城跡(450)　**潮来市**:新城跡/大台城跡(451)　島崎城跡(452)　永山城跡(453)　**神栖市**：豊田城跡/石神城跡(454)

4　参考文献・・・

Ⅰ　序論

「総合調査」の意義―〔分布と縄張り〕の断絶と継承―

茨城県中世城館跡総合調査委員会委員長　高橋　修

「茨城県中世城館跡総合調査」は、県内の中世城館跡について、その分布や遺構の範囲を、現地調査及び文献や地名等の精査を総合的に実施することにより正確に把握し、その保護と活用を図るための基礎データを構築することを目標としている。特定の城館跡の構造や特質について歴史学的・考古学的に考察を深めることを直接の目的とするわけではなく、県域という地理的な広がりの中で、城館跡を網羅的に拾い出し、個々について遺構の範囲を確定・推定することに主眼を置いた。

太平洋に面し、内陸に広大な内海が広がり、北部には八溝山系の山並みが張り出す、バラエティに富んだ地形環境をもつ茨城県域には、中世、それを利用した大小さまざまな城館が数多く構築された。旧国や県の単位で、あるいは郡域、市町村域において、その地域的な分布と縄張りを悉皆的に把握しようとする努力は、近世以来続けられてきた。「茨城県中世城館跡総合調査」も、そうした調査・研究の成果を批判的に継承するものであり、ここではそれを学説史として概括し、序論に替えたい。

歴史研究が盛んな水戸藩の内外では、早くから優れた地誌がまとめられている。その中には藩領内の城郭跡に関心を向けたものも少なくない。その到達点が、中山信名・色川三中らによる『新編常陸国誌』第七巻の「城地」「古城」「館址」であることは間違いないが（宮崎報恩会版、常陸書房、1969 年）、そこでは個々の城館の沿革に主たる関心が向けられており、多くは立地や縄張りにまでは筆が及ばない。そうした中で、近世に遡る成果として「松岡地理誌」の存在は特筆される（北茨城市史編さん委員会編『北茨城市史』別巻２　1984 年）。同書は、江戸時代後期に寺門義周の手で編纂された松岡藩領に関する地誌で、領内 23 ヶ所の中世に遡る城館跡が、縄張りを的確に捉えた平面図とともに紹介されている。

近代に入り、地域の武士の足跡が顕彰される中で個々の城館跡に関する関心が薄れることはなかったが、城郭の分布や縄張りに関して新たな調査成果が現れるのは、昭和に入ってから後のことである。現常陸太田市生まれの小説家・郷土史家の川崎春二が、県北の城館跡の構造を独自の手法による縄張図に記録し、「常陸奥七郡城館図」を残した。昭和 20 年代中頃から昭和 44 年（1969）に没するまでの間に、川崎は 197 件の城館跡の縄張図を作成している。川崎は出版を計画していたようだが、当時の社会的関心は低く断念、「常陸奥七郡城館図」はそのまま埋もれることとなった。特に高度経済成長期の開発により失われた城館跡の縄張図を多数含む「常陸奥七郡城館図」は、近年、五十嵐雄大・山川千博による現地比定の成果が公表され、ようやく利用に便宜が図られている（「川崎春二『常陸奥七郡城館図』に見る中世城館」『常総中世史研究』７、2019 年）。

このように川崎の調査成果が直ちに継承されることはなかったが、1979 年には『日本城郭大系』４〔茨城 栃木 群馬〕（新人物往来社）が刊行された。同書には 529 件の城館遺跡の分布が地図上にプロットされ、そのうち 129 件について解説が付けられている。さらに 53 件については、縄張

図や実測図、概念図、航空写真等で縄張りや遺跡の範囲が明示された。県域という規模で城館遺跡について、分布と縄張りの集成がはじめて企図された意義は大きい。

この頃より、県下でもいわゆる「自治体史ブーム」が本格化する。市町村ごとに城館遺跡の調査が進み、その成果が自治体史本編の中に収録されている。地元にゆかりの武将の旧跡として、地表面観察や伝承に基づく紹介にとどまる場合もあるが、城館の縄張りや分布が図化されている場合も多い。それが城館跡を住民が遺跡として認識するため、一定の役割を果たしたことは間違いない。特に常陸太田市史編さん委員会編『佐竹氏関連城館』(1984 年)、龍ケ崎市教育委員会編『龍ケ崎市史』別編 2〔龍ケ崎の中世城郭跡〕(1987 年)、関肇（八郷町）編『八郷町の中世城館』（2000 年)、真壁町歴史民俗資料館編『真壁町の城館』(ふるさと真壁文庫 5 、2002 年）等、自治体史編さんの中で取り組まれた調査成果が、単行本のかたちで刊行される場合もあった。この「茨城県中世城館跡総合調査」もこうした各市町村による自治体編さん事業により、市町村ごとに集成された城館跡の情報を土台としている。

なお 1985 年、文化財保護行政の立場から、茨城県教育庁文化課も『重要遺跡調査報告書』II〔城館跡〕を刊行している。組織的に城館跡を遺跡として把握する事業に取り組むのは、県として初めてのことであった。250 ヶ所の城館跡が、多くは簡単な平面図を付して紹介されているが、すでに『日本城郭大系』や自治体史が公表している縄張図から退化した図が掲載される場合も散見され、調査の精度には課題を残した。

1980 年代以降、自治体史が次々と刊行される一方で、開発による城館遺跡の破壊が進み、記録保存のため行われた発掘調査の成果が報告書として続々と公表されるようになる。時間や予算の制約、調査主体や担当者の関心の濃淡により、その精度はまちまちだが、調査された城郭の構造が学術的に客観性の高いデータで示された。それは地表面観察等により城館跡を認識し、分布や縄張りを推察する上でも確実な指標となっている。ここでその達成を一つ一つ検証する余裕はないが、それがこの「茨城県中世城館跡総合調査」のもう一方の土台となっている。なお真壁城跡や小田城跡では、国の史跡化に伴う、史跡公園整備のための本格的な発掘調査が継続的に実施された。県内においても、こうした大規模な拠点的城郭の全体像が、考古学的な調査成果として示されたことの意義は、言うまでもなく大きい。

2000 年代に入ると、民間の城郭研究者による情報発信が活発化する。インターネットを活用し、膨大な量の縄張図や概念図が公開されるようになった。そこには従来、研究者や自治体が把握さえしていなかった城館跡に関する情報が豊富に含まれており、県下の城館遺跡の分布や広がりについて、その全体像が浮かび上がってきた。茨城城郭研究会による成果は、2006 年の茨城城郭研究会編『図説 茨城の城郭』(国書刊行会、改訂版 2017 年）を皮切りに、同編『続 図説 茨城の城郭』(国書刊行会、2017 年)、同編『図説 茨城の城郭』3〔県北編〕(青木義一　2022 年）として、次々に刊行されている。

2014 年度から 2019 年度にかけて、茨城大学中世史研究会は「那珂市中世城郭遺跡分布・縄張調査」に取り組んだ。宅地開発が進む那珂市域で、遺跡としての範囲が不明確であるため十分とは言えない発掘調査だけで次々に城館跡が破壊されていく現状を見かねた五十嵐雄大・山川千博による問題提起を受け (「那珂市域における中世城郭遺跡の分布状況」『常総中世史研究』2 、2014 年)、危機感を共有する那珂市教育委員会とともに立ち上げられた調査事業で、地区ごとの「調査報告」が 5 回に分けて『常総中世史研究』誌上に連載されている（ 3 ～ 7 、2015～2019 年)。す

でに優れた縄張図が公表されていた額田城や南酒出城のような大規模城館は除外し、中小規模の埋もれた城館跡を中心に 55 ヶ所を現地で検証し、堙滅した遺跡の復元を含めすべて図化して報告している。この分布・縄張り調査の問題意識や手法は「茨城県中世城館跡総合調査」にも継承されている。

5 年間にわたる「茨城県中世城館跡総合調査」により、茨城県内には 1135 ヶ所の中世城館跡が所在することが確認された。その中の 673 ヶ所については、新たに遺構の範囲（遺構が広がる可能性のある範囲）が検討され、図化されている。この調査により、郷・村の中で、さらに郡・荘や領主の支配領域といった、より広い面的広がりの中で、城館跡を「城郭群」としてとらえ比較・検討することが可能になるだろう。重要な城館跡について遺跡の範囲が縄張りとして明示されたことは、各自治体におけるその全体像の把握や保存・整備に向けた取り組みに、基礎資料を提供するものである。

茨城県下においては、例えばすでに江戸時代の学者が把握していた城館跡が、現代の埋蔵文化財の包蔵地からは漏れていたり、あるいは自治体の刊行物に載せられた縄張図が既存の図面よりも退化していたりと、特に中世遺跡に関しては先行する調査・研究の成果の検証と継承が、十分だったとは言えない。このようなかたちで集成された「茨城県中世城館跡総合調査」の成果を批判的に継承することにより、常陸・北下総地域の中世城館跡の研究が一層の進歩を遂げ、遺跡としての保存・活用が促進されることを期待したい。

Ⅱ　調査の概要

1　調査目的

北関東の中世の城館は、石垣や石積みがほとんどみられず、掘削や盛土などの土木工事により堀や土塁・切岸などの防御施設を造作しているため、時間の経過により土塁は崩れ、堀は埋まってしまう。さらに、森林に覆われてしまえば、その所在を認知することは難しくなる。遺構の範囲が不明瞭であるため、調査・保護の手が届くことなく、開発行為に伴い破壊されてしまう場合もある。

こうした現状を改めるため、県内の中世城館跡について、遺構の所在・構造・現況・範囲等を悉皆的に調査し、さらに古文書・古絵図・地名・伝承等の資史料で裏付けることによって、新たな歴史的遺産としての価値を掘り起こし、遺跡としての保存・整備・活用のための計画策定や、新たな史跡指定に向けた基礎的資料の整理を図ることを目的とする。

○　県内全域にわたり、中世に所在した城館跡、及びこれに類する遺構について現地踏査・測量調査等を実施し、基礎的な資料の収集と実態の把握を行う。

○　調査事業を通して、中世城館跡と周辺に残る文化的所産を明らかにすることにより、今後の保存と活用を図るための基礎的な資料とする。

○　調査事業及びその成果をもとに、中世城館跡とその周辺における歴史的環境等の見直しを行い、歴史的遺産としての保存・活用及び普及啓発活動に役立てる。

2　調査対象

県内全域（県北地区、県央地区、県西地区、県南地区、鹿行地区の５地域に区分することを基本とするが、当時の各氏族・勢力の支配領域にも配慮する）

ア　中世に所在した城館及びこれに付属する施設等

イ　中世城館に関する古文書、地誌、地図、地積図、文献資料等

ウ　中世城館に関連する地名等

3　調査内容

中世城館跡の現況・遺構の確認、城館跡の構造・城館跡を含む歴史的景観の復元、城館跡に関する歴史的背景の調査

4　事業主体

茨城県教育委員会

5　協力機関

各市町村教育委員会

6　調査期間

平成 30 年度～令和４年度の５年間

7　調査方法

(1) 基礎調査（遺構の把握）

○　城館跡の分布状況を把握（市町村に調査依頼）し「中世城館跡調査カード」を作成

○　城館跡に関わる既発表の縄張図等の収集・整理

○　報告書・関係論文の収集・整理

○　城館跡に関する地名・伝承等の調査

○　確認調査：城館跡の所在についての確認

(2) 詳細調査（遺構調査）

○　縄張り図の検証・作成及び写真撮影等

○　城館跡の遺構範囲の確定

(3) 文献等調査

○　城館跡に関する文献・古文書の収集・解読

○　古絵図等の収集

8　調査組織・体制

(1) 調査委員会

調査全般に係わる総括的な指導を受けるために、茨城県中世城館跡総合調査委員会設置要項に基づき、茨城県中世城館跡調査委員会を設置する。調査委員会は、専門委員及び調査員により構成し、互選により委員長１名を選出する。

(2) 専門委員

専門的知識を有する学識経験者に、県教育委員会が委嘱する。調査全般において中心的役割を担うとともに、担当する分野の調査に対し総括的な指導を行う。また、報告書の編集及び執筆を行う。

(3) 調査員

専門委員の推薦等により、県教育委員会が委嘱する。調査員は、現地調査、詳細調査、史資料の収集等を行い、報告書の執筆を担当する。

【専門委員】

高橋　　修	茨城大学人文社会科学部
佐々木倫朗	大正大学文学部
阿久津　久	元茨城県埋蔵文化財指導員
竹井　英文	東北学院大学文学部歴史学科

【調査員】(所属等については委嘱時のみ掲載)

山口　憲一	常陸太田市教育委員会
森木　悠介	東海村立図書館
山川　千博	大田原市教育委員会
藍原　　怜	那珂市歴史民俗資料館
須貝　慎吾	仙台市教育委員会

青木　義一　　茨城城郭研究会
関口　慶久　　水戸市埋蔵文化財センター
額賀　大輔　　笠間市教育委員会
田村　雅樹　　公益財団法人茨城県教育財団
山縣　創明　　茨城県立水戸第一高等学校
五十嵐雄大　　茨城城郭研究会
内田　勇樹　　鹿嶋市教育委員会
比毛　君男　　上高津貝塚ふるさと歴史の広場
前川　辰徳　　茨城大学中世史研究会
飛田　英世　　茨城県立歴史館
岡田　武志　　茨城城郭研究会
本田　信之　　小美玉市教育委員会
広瀬季一郎　　つくば市教育委員会
木本　挙周　　牛久市教育委員会
千葉　隆司　　かすみがうら市教育委員会
中根　正人　　筑波技術大学
西山　　洋　　茨城城郭研究会
宇留野主税　　桜川市教育委員会
大谷　昌良　　筑西市教育委員会
内山　俊身　　茨城県立古河中等教育学校
余湖　浩一　　茨城城郭研究会
佐藤　湧太　　茨城大学大学院
藤井　達也　　水戸市立博物館
遠山　成一　　茨城城郭研究会
越田真太郎　　桜川市建設部
小堤　捺貴　　茨城大学大学院
菊池　晶　　茨城大学大学院

【事務局（県教育委員会）】
入野　浩美　　文化課長（H30 年度）
市村　志保　　文化課長（R 元～R 2 年度）
田﨑　俊一　　文化課長（R 3 年度）
宮﨑　　薫　　文化課長（R 4 年度）
飯塚　佳子　　課長補佐（総括）（H30 年度）
仲野　祐二　　課長補佐（総括）（R 元年度）
増子　靖啓　　課長補佐（総括）（R 2 年度）
宮尾　　徹　　課長補佐（管理担当）（H30 年度）
　　課長補佐（総括）（R 3 ～R 4 年度）
峯嶋啓一郎　　課長補佐（管理担当）（R 元年度）

吉澤　正貴　　課長補佐（管理担当）（R２年度）
吉田　信行　　課長補佐（管理担当）（R３～R４年度）
新黒　康司　　主任（管理担当）（H30～R元年度）
　　係長（管理担当）（R２～R３年度）
井野場文晃　　主事（管理担当）（H30年度）
　　主任（管理担当）（R元年度）
小澤　伸介　　主任（管理担当）（R２～R４年度）
武藤　尚子　　係長（管理担当）（R４年度）
芳賀　友博　　課長補佐（埋蔵文化財担当）（H30～R元年度）
松本　直人　　課長補佐（埋蔵文化財担当）（R２～R３年度）
齋藤　貴史　　文化財保護主事（H30年度）
　　課長補佐（埋蔵文化財担当）（R４年度）
齋藤　和浩　　文化財保護主事（H30～R２年度）
舟橋　　理　　文化財保護主事（H30～R４年度）
宇都木宏一　　文化財保護主事（R３～R４年度）
永井　　敦　　文化財保護主事（R４年度）
栗原　　悠　　文化財主事（H30～R４年度）
　　主任文化財主事（R４年度）
加藤　千里　　文化財主事（R元～R４年度）
池田　晃一　　主査（H30～R４年度））
吉原　作平　　主査（H30～R４年度）
原信田正夫　　主査（R２～R３年度）
飯島　一生　　主査（R３～R４年度）

（4）調査協力者

下記の方々には、現地踏査や資料提供等において御協力を賜りました。篤く感謝申し上げます。（敬称略）

菊池　壮一	大野　地央	海老澤正孝	野内智一郎	高橋　宏和
鹿野　貞一	丸山　弘美	鈴木　美治	齊藤　達也	寺崎　大貴
物井　雅貴	平田　満男	間宮　正光	野口　潔彦	五十嵐敏之
大竹　房雄（故人）				